卒塾生決意表明

岡田（おかだ） 吉弘（よしひろ）（35 期生）

4 年間大変お世話になりました。卒塾の日を迎えることができたのは、支えてくださった皆さまのおかげです。

松下政経塾で、こころの底から感じたことは大きく二つあります。一つは、強烈な危機感。現状のままでは、松下幸之助塾主が描いた理想社会とはかけはなれたものになるという危機感です。もう一つは、松下幸之助塾主との対話の中で描いた理想モデルを、小さくてもいいから自分でつくろう、ということです。そのモデルをもって、一点突破で風穴を開けて、全面展開をはかろうということを決意しました。

志と熱意があれば、道は必ずひらけてくる。それを苦しみながらも実感してきた今日です。取組みは、文字通り道半ばです。しかし、これからもしっかりと地に足をつけて邁進しますので、ご指導よろしくお願いいたします。

木村（きむら） 誠一郎（せいいちろう）（35 期生）

4 年間、本当に、本当に有難うございました。お陰様で、晴れて卒塾の日を迎えることができました。

先日、入塾式で「今年の入塾生は“草食系男子”のようだ」と言われたことを、ふと思い出しました。松下政経塾の研修は、楽しいこともありましたが、基本的にはもがき苦しむことばかりで、「なんでこんなことやってるのだろう」と思ったことは一度や二度ではありません。そんな時、入塾趣意書を見直し、また、「設立趣意書」や「塾是・塾訓・五誓」を眺め、自分がなぜ政経塾を志したのか、今、何を為すべきか、自問自答を繰り返したことを思い出します。その中から、徐々に研修の意義づけができるようになり、肉食系とまではいきませんが、顔つきが変わったと言われるようになった気がします。

卒塾後は、在塾時の活動をそのまま継続し、2045 年までに日本をエネルギー融通国とすべく、頑張って参ります。引き続き皆様のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

山本（やまもと） 将（すすむ）（35 期生）

塾生生活の 4 年間、未熟な私を支えて下さったすべての皆様に改めて御礼申し上げます。塾生・塾員の皆様、 政経塾の職員の皆様、ご指導賜りました先生方、多くの人に支えられ、また励まして頂き、今日という日を迎えることができました。誠にありがとうございました。

政経塾では果敢に挑戦する姿勢と深い洞察力、松下幸之助塾主のものの見方・考え方を学びました。また、同期や先輩・後輩という同志との御縁を頂きました。この学びと御縁を大事にさせて頂きながら、私の志である「家庭環境に関係なく、すべての子ども達が生き抜く力を育んでいくことができる社会」の実現のために、現場で汗をかきたいと考えております。

卒塾後は特定非営利活動法人トイボックスに所属し、引き続き日本財団×ベネッセの子どもの貧困対策プロジェクトの現場マネージャーを全ういたします。地道に精進してまいりますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

小林（こばやし） 達矢（たつや）（36 期生）

1992 年 8 月 1 日生まれ。長野県長野市出身。日本大学法学部卒業後、2015 年に松下政経塾に入塾。長野五輪後進んだ長野市の衰退に問題意識を持ち、地方創生をテーマに塾生活を送る。長野を愛し関わっていく住民を増やすために、SIM2030（自治体経営シミュレーションゲーム）を対話の場の実践として行っており、これまで職員研修や大学授業で開催。半年で計 12 回延べ 250 名以上の方に参加していただいた。4 月より長野市の市民協働サポートセンターのコーディネーターとして対話の場をさらに広げていく。

津曲（つまがり） 陽子（ようこ）（38 期生）

幼少期からの想いに再び向き合った政経塾での 2 年間でした。

大学を卒業して会社に入り、「もうこれで安心して暮らそう」と思っていました。時が経ち、将来のことを考えた時、「自分の安心のためだけではないことをしなければ」と、ふと思うことがありました。

その時、幼少期から抱いていた想いが 20 年越しに再び湧き上がり、その想いを社会のためになる方法でカタチにできる方法を検討すべく塾に入りました。当初から抱いていた想いに向き合い、塾での研修をして行く中で、「世界との繋がりを、地域の誇りの醸成そして発展につなげていきたい」と決意を固めてまいりました。

そして 4 月より NPO 法人「日本で最も美しい村」連合において新しいスタートをきり、地域のいいところを見つけ、守り、育てていく活動を行います。いただいた多くのご縁に感謝しながら、これからも精一杯歩んでまいりますので、今後ともご指導の程よろしくお願いいたします。